

中山間地域等直接支払交付金

I . 制度の概要

中山間地域等直接支払交付金

○ 中山間地域等の農業生産条件の不利を補正することにより、農業生産活動を将来に向けて維持する活動を支援

【対象地域】

地域振興8法等指定地域及び知事が定める特認地域

特定農山村法、山村振興法、過疎法、半島振興法、
離島振興法、沖縄振興法、奄美群島法、小笠原諸島法、
東日本大震災復興特別区域法

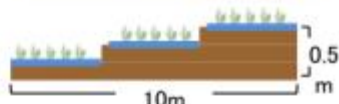
【対象者】

集落協定又は個別協定に基づき5年以上継続して耕作を行う
農業者等

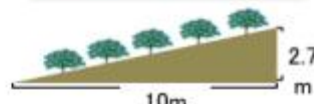
【主な交付単価】

| 地目 | 区分 | 交付単価 円/10a |
|----|-------------|---------------|
| 田 | 急傾斜(1/20~) | 21,000 |
| | 緩傾斜(1/100~) | 8,000 |
| 畑 | 急傾斜(15度~) | 11,500 |
| | 緩傾斜(8度~) | 3,500 |

水田:急傾斜(傾斜:1/20)



畑:急傾斜(傾斜:15°)



- 集落等を単位として、農地の管理方法や役割分担を取り決めた協定を締結し、それに基づき行われる農業生産活動等を支援するため、面積に応じて一定額を交付
- 交付金の配分方法は集落内の話し合いで決定

【集落協定に基づく活動】

- ① 農業生産活動等を継続するための活動（農作業委託等による耕作放棄の防止、鳥獣害対策等）
- ② 体制整備のための前向きな取組（生産性向上の取組、女性・若者等の参画、持続可能な生産体制の構築）

【加算措置】

○ 高齢化や人口減少により、農業生産活動の継続に支障が生じることが懸念されている中山間地域等において、地域の農業や集落機能などが継続されるために追加的に措置

【集落連携・機能維持加算】

① 広域で集落協定を締結し、将来の集落維持に向けた活動を支援

複数集落が連携した広域の集落協定を対象に、人材確保や集落間の連携活動体制づくりを支援

| |
|------------|
| 〔単価〕 |
| 地目にかかわらず |
| 3,000円/10a |



② 小規模・高齢化集落の農用地の生産維持を支援

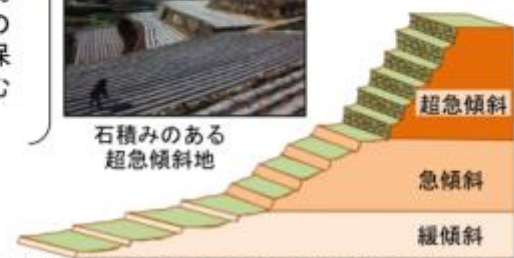
協定集落が小規模・高齢化集落の農用地を取り込んだ形で行う農業生産活動を支援

| | | |
|------|------------|------------|
| 〔単価〕 | 田 | 畑 |
| | 4,500円/10a | 1,800円/10a |

【超急傾斜農地保安全管理加算】

超急傾斜地（田：1/10以上、畑：20度以上）の農用地について、その保全や有効活用に取り組む集落を支援

| |
|------------|
| 〔単価〕 |
| 田・畑 |
| 8,000円/10a |



平成28年度中山間地域等直接支払制度の運用の見直しについて

1. 背景

中山間地域等直接支払制度では、平成27年度からの第4期対策において、農業者の高齢化や病気による協定参加者数の減少等により、取組面積が約3万ha減少。取組への参加促進が必要。

平成26、27年度取組面積

| H26年度(実績)① | H27年度(見込)② | ②/① |
|------------|-----------------------|---------------|
| 687,220ha | 654,159ha (▲33,061ha) | 95.2% (▲4.8%) |

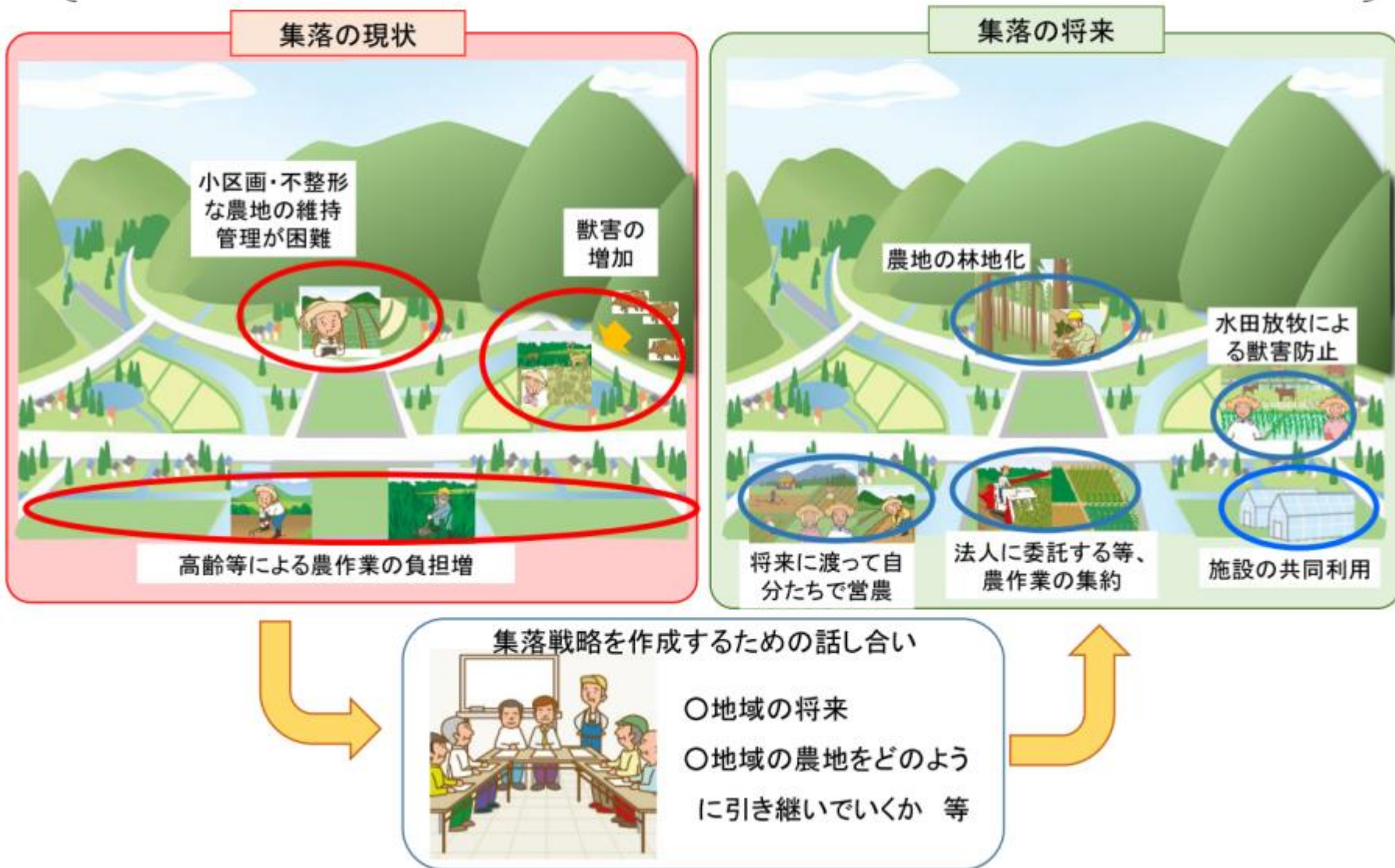


2. 内容

- (1) 協定参加者数が減少した集落等を支援する次の取組への加算措置を平成27年度から実施中。
 - ① 複数の集落が連携した活動体制づくり
 - ② 近隣集落による小規模・高齢化集落の農業生産活動への支援
- (2) しかしながら、現在の運用では協定活動の継続が難しくなった場合、原則として全農地に係る交付金の全額返還が必要。このことが、複数集落の連携等をためらう要因の一つ。
- (3) このため、地域の将来に関する計画(集落戦略)を作成した上で、(1)の取組等を実施する場合は、一部の農地について協定活動の継続が困難となっても、全農地に係る交付金の全額返還を求めず、当該一部農地のみ返還とする仕組みを創設。
- (4) このほか、地域の要望を踏まえ改善。

【集落戦略の作成イメージ】

集落戦略を作成するに当たっては、地域の重要な資源である農地をどのように将来に引き継いでいくか等、無理のない範囲で集落の将来について話し合うことが重要。



遡及返還規定の適用イメージ

- 集落連携・機能維持加算に取り組む協定、又は、合計15ha以上の協定については、集落戦略を作成することで5年間の農業生産活動を維持できなかった場合の返還規定を見直し。

集落協定

① 集落連携・機能維持加算に取り組む場合

集落協定の広域化支援

<複数集落が連携して広域の協定を締結し、おおむね50戸以上の規模の集落を支援>

小規模・高齢化集落支援

<19戸以下、かつ、高齢化率が50%以上の集落を支援>

② 協定の規模拡大に取り組む場合

合計15ha以上の集落協定

※①、②のいずれの場合においても、集落戦略の作成が必須

③ その他（上記以外の協定）

返還規定

（例：一部の農地について協定活動の継続が難しくなった場合）

○ 今回見直し
耕作又は維持管理が行われなかった部分のみについて、交付金を協定認定年度に遡って返還

※農業者の高齢、病気等のやむを得ない場合は、全額返還免除

○ 変更なし
（協定農用地の全てについて、交付金を協定認定年度に遡って返還）

※農業者の高齢、病気等のやむを得ない場合は、全額返還免除

「集落戦略」の作成に向けた取組と記載例

中山間地域等直接支払制度の取り組みを断念した方や継続を心配している方へ

こういった理由ではありませんか？

まだ農業は続けるけど、万が一耕作できなくなったときに集落に迷惑かけたくない…



こういった声を受けて、中山間地域等直接支払制度を一部見直しました！！

見直しのポイント

①、②のどちらかを満たしている協定は、**集落戦略**を作成することで農地が耕作放棄されたときなどの交付金の返還が**全ての協定農地から耕作放棄された農地のみ**に緩和されます。

- ①協定農地が合計15ha以上（現況でも新規統合でもOK）
- ②集落連携・機能維持加算に取り組んでいる



Q. ①を満たすために協定を統合したいけどそのための手続きの量は？

A. 統合に必要な手続きは煩雑ではありません！

協定の統合については、右図のようにそれぞれの旧協定がそれぞれの考え方を持った状態としてもかまいません。（無理に一元化する必要はありません。）詳しくは裏面の連絡先にご相談ください。



集落戦略の記載例

【記載例】

①それぞれの農地の将来像について該当する箇所に“○”印をつけて下さい。

②課題があれば記入して下さい。

1. 協定農用地の将来像

| 地番 | 地目 | 農用地積 (㎡) | 現況 | 管理者 | 農用地の将来像 (概ね10～15年後) | | | | | | 農用地を将来 (概ね10年～15年後) に向けて維持するための課題 |
|-----|-----|----------|-----|-------|---------------------|-----------|------------|-----------------|-----------|-----|-----------------------------------|
| | | | | | 管理者が引き続き耕作 | 担い手等に委託予定 | 担い手等に委託を希望 | 農地中間管理機構への貸付を希望 | 草刈り等の管理のみ | その他 | |
| 121 | 田 | 800 | 耕作 | 農林 太郎 | | | ○ | | | | 引き受け手の確保 |
| 122 | 田 | 900 | 耕作 | 農林 次郎 | ○ | | | | | | なし |
| ... | ... | ... | ... | | | | | | | | |

○人・農地プランで、既に将来の農地の利用等が決まっている農地は、その内容を踏まえて“○”印を付けて下さい。

③集落全体での課題（農業のこと以外も可）と対策を記載して下さい。

2. 集落の将来像

(1) 協定農用地を含む集落全体の課題と対策

| 区分 | 課題 | 対策 | 対応者 | 対策の実施時期 | 実施に用いる手段 |
|-----|-----|---------|--------|---------|--------------|
| 農地 | 草刈り | 防草シート設置 | 集落協定組織 | H30～H31 | 中山間直支払交付金を活用 |
| 農道 | 損傷 | 補修 | 集落協定組織 | H35 | 県の事業を活用 |
| ... | ... | | ... | ... | ... |

(2) 集落の将来像

例 ○集落出身者がUターンして担い手になってもらえるように働きかける。
○地域おこし協力隊にきてもらえるよう町に相談する。

④協定農用地を含む集落全体の課題と対策等について具体的に記載して下さい。

○集落マスタープランの内容を使う場合は、“集落マスタープランと同じ”と記入して下さい。

○地域のその他の計画(市町村の計画などに定めた地域の将来像)の内容を使う場合は、“〇〇計画で作成した内容と同じ”と記入し、その資料を添付して下さい。

2. 滋賀県における対象地域

対象となる地域

★法指定地域

「特定農山村法」「山村振興法」「過疎地域自立促進特別措置法」
「離島振興法」の4法によって指定された地域

★特認地域（知事が指定する地域）：1の要件を満たす地域において
2の要件を満たす農用地とする。

1. 地域基準（次の①～④のいずれかの要件を満たす）

- ①法指定地域に地理的に隣接する農用地
- ②農林統計上の中間農業地域または山間農業地域
- ③既成市街地等に該当せず一定の要件を満たす地域
- ④特定農山村法にかかる要件を満たす地域(急傾斜のみ)

2. 農用地基準

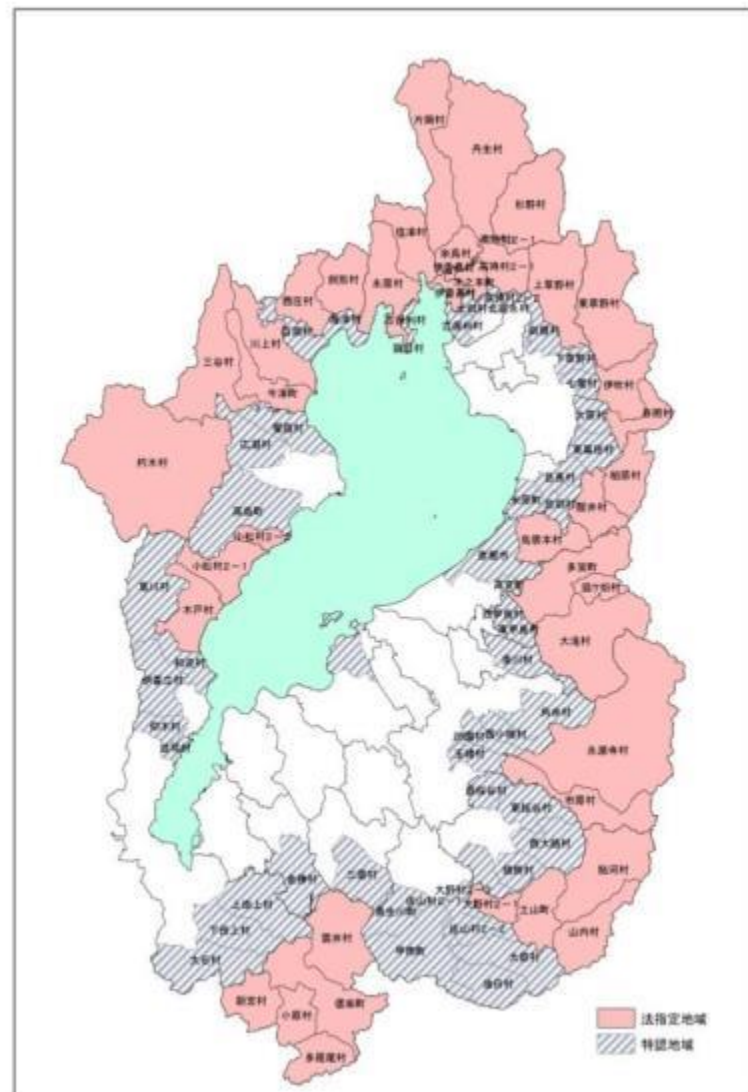
(1) 上記①から③の地域については、次のいずれかの要件を満たす

- ア 傾斜農用地（田1/100以上、畑・草地 8度以上）
- イ 自然条件により小区画・不整形な田
- ウ 高齢化率・耕作放棄地の高い農地

(2) ④の地域については、次の要件を満たすこと。

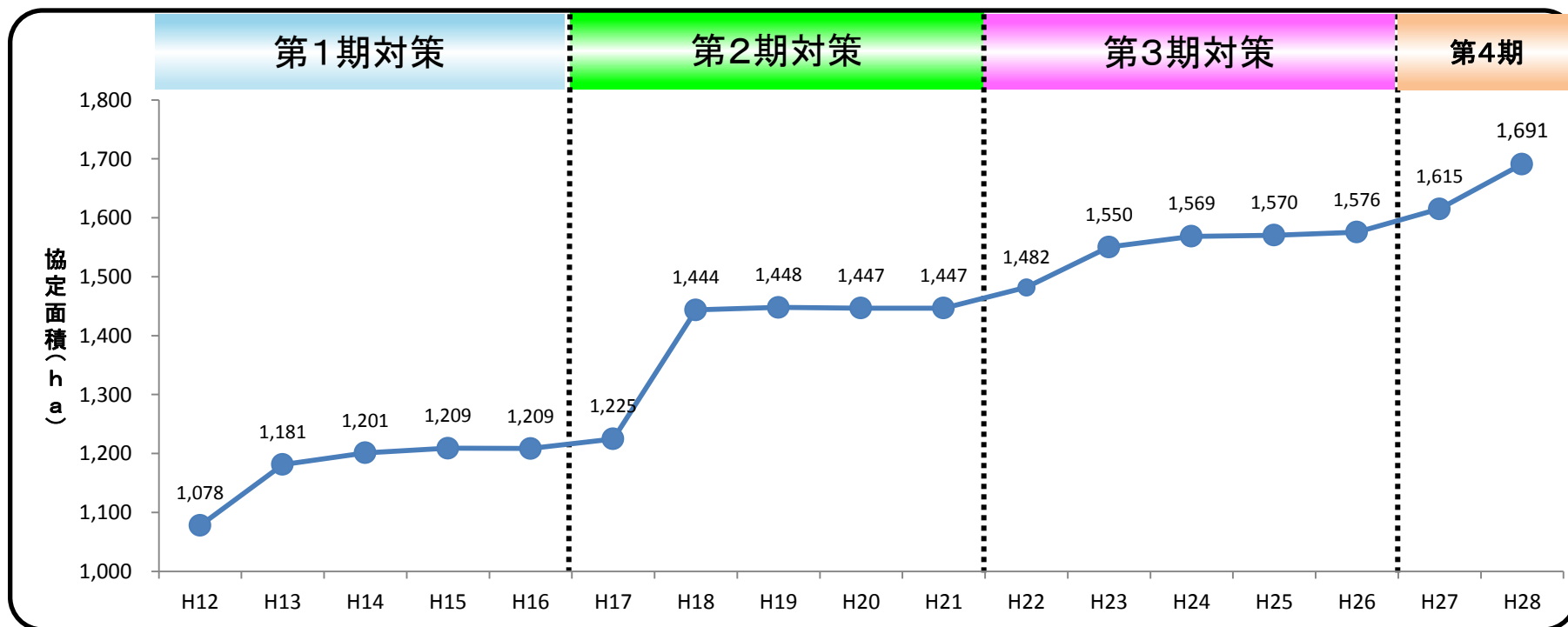
- ア 急傾斜農用地の田(1/20以上)

法指定地域、特認地域



3. 滋賀県における中山間地域等直接支払交付金 協定面積の推移

- 中山間地域等直接支払制度が始まった平成12年度以降、協定締結面積は増加。
- 平成27年度からは、「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づいた安定的な措置として実施。



Ⅱ．平成28年度の実施状況

実施状況の審査検討について

◆中山間地域等直接支払交付金実施要領 第8の2

第8 第三者機関の設置

- 1 (省略)
- 2 都道府県は、交付金の交付が計画的かつ効果的に推進されるよう市町村及び関係団体に助言するとともに、**交付金の交付状況の点検、市町村の対象農用地の指定の評価、特認地域及び特認基準についての審査検討を行う中立的な第三者機関を設置する。**

◆滋賀県農村振興交付金制度審議会運営要領（別紙1）第2条関係

審議会の担任する事務の細目

- 1 **中山間地域等直接支払交付金に関する事務**
 - (1) **交付金の実施状況の点検に関すること。**
 - (2)～(4) 省略
- 2 省略
- 3 **その他農村の振興に係る交付金制度の調査審議に必要な事務**

1. 対象面積、協定面積、集落協定参加農家数

- 第4期対策(H27-31)の2年目となる平成28年度は、10市町で1,691haで協定が締結された。
- 前年度に比べ、協定数は6、交付面積は77ha、協定参加者は286人増加した。

表1 平成28年度の対象面積と協定面積、集落協定参加農家数等

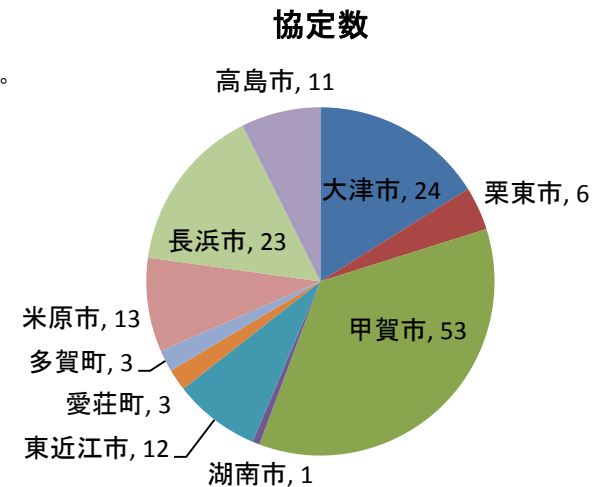
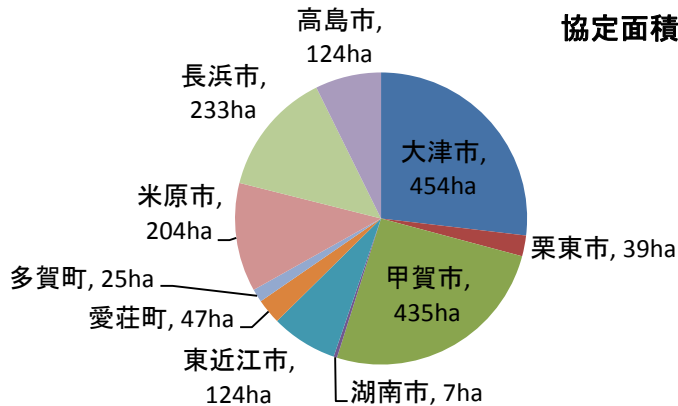
| 市町名 | 対象面積 ¹⁾ (ha) | 協定面積 (ha) | 協定数 ²⁾ | 単価 | | 協定参加農 家数 ³⁾ (人) | 【参考】平成27年度 | | | | | | |
|--------------------|----------------------------|--------------|-------------------|---------|--------|----------------------------------|--------------|--------------|---------|-----------|--------|----------|----------------|
| | | | | 通常(10割) | 基礎(8割) | | 対象面積 (ha) | 協定面積 (ha) | 協定数 | 通常単価(10割) | | 基礎単価(8割) | 協定参加農 家数(人) |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 大津市 | 593 | 454 | 24 | 18 | 6 | 1,152 | 600 | 448 | 23 | 17 | 6 | 1,127 | |
| 栗東市 | 52 | 39 | 6 | 6 | | 90 | 51 | 37 | 5 | 5 | 0 | 83 | |
| 甲賀市 | 688 | 435 | 53 | 48 | 5 | 899 | 673 | 424 | 52 | 47 | 5 | 722 | |
| 湖南市 | 7 | 7 | 1 (1) | 1 (1) | | - | 7 | 7 | 1 (1) | 1 (1) | | - | |
| 東近江市 | 127 | 124 | 12 | 11 | 1 | 351 | 127 | 124 | 12 | 11 | 1 | 351 | |
| 愛荘町 | 47 | 47 | 3 | | 3 | 67 | 47 | 47 | 3 | 0 | 3 | 67 | |
| 多賀町 | 31 | 25 | 3 | 2 | 1 | 67 | 31 | 14 | 2 | 2 | 0 | 29 | |
| 米原市 | 265 | 204 | 13 | 12 | 1 | 289 | 265 | 201 | 13 | 12 | 1 | 290 | |
| 長浜市 | 318 | 233 | 23 | 22 | 1 | 512 | 312 | 190 | 21 | 20 | 1 | 472 | |
| 高島市 | 245 | 124 | 11 (1) | 2 | 9 (1) | 139 | 245 | 124 | 11 (1) | 2 | 9 (1) | 139 | |
| 滋賀県計 ⁴⁾ | 2,373 | 1,691 | 149 (2) | 122 (1) | 27 (1) | 3,566 | 2,358 | 1,615 | 143 (2) | 117 (1) | 26 (1) | 3,280 | |

注1) 取組市町(10市町)における対象面積のみ計上

注2) 湖南市、高島市の協定数欄の()は個別協定数で内数

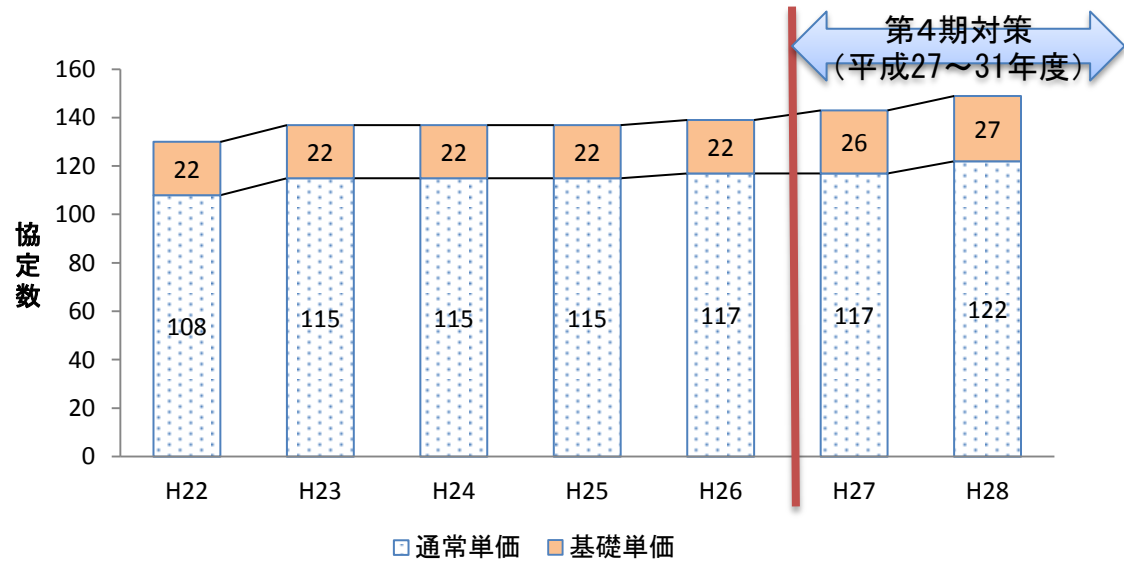
注3) 個別協定は人数に含めず

注4) 面積計の不整合は、各項の小数点以下を四捨五入しているため、合計値と一致しない場合がある(以下、同様)。



2. 協定数の推移

- 前年度より6協定増加し、149協定（集落協定147、個別協定2）となった。
- 通常単価（10割単価）で取り組んだ協定は122、基礎単価（8割単価）で取り組んだ協定は27でした。



【基礎単価(8割)】
 農業生産活動等を継続するための活動のみに取り組んだ場合に交付される単価で、通常単価の8割の額。

【通常単価(10割)】
 農業生産活動等を継続するための活動に加え、体制整備のための前向きな活動(機械・農作業の共同化や多様な担い手の確保など)に取り組んだ場合に交付される単価。

表 H27からH28にかけての協定数の動き

| | 協定数 | | | 備考 |
|----|------------|-----------|---|--------------------------|
| | 通常単価 (10割) | 基礎単価 (8割) | | |
| 新規 | 5 | 1 | 6 | 大津市1、栗東市1、甲賀市1、多賀町1、長浜市2 |

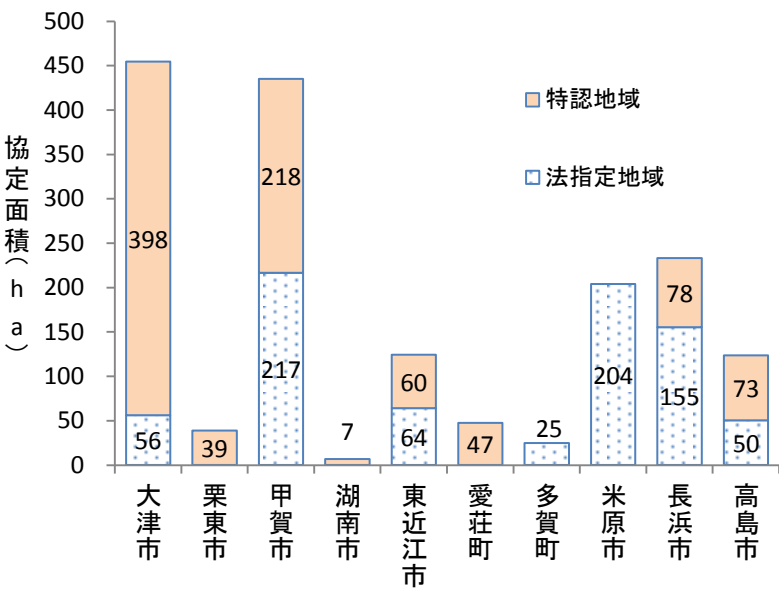
3. 協定農用地面積、地域区分、地目

協定農用地の交付面積1,691haのうち、

- 法指定地域で771ha（46%）、特認地域では921ha（54%）と、特認地域での取り組みが多い状況でした。
- 地目別では、田が1,643ha（97%）、畑が48ha（3%）でした。

各市町の協定面積

| 市町名 | 協定面積 (ha) | | | うち、法指定地域 ¹⁾ | | | うち、特認地域 ²⁾ | | |
|--------------------|-----------|------|---------|------------------------|------|-------|-----------------------|---|-------|
| | 田 | 畑 | 計 | 田 | 畑 | 計 | 田 | 畑 | 計 |
| 大津市 | 454 | | 454 | 56 | | 56 | 398 | | 398 |
| 栗東市 | 39 | | 39 | | | | 39 | | 39 |
| 甲賀市 | 387 | 48 | 435 | 168 | 48 | 217 | 218 | | 218 |
| 湖南市 | 7 | | 7 | | | | 7 | | 7 |
| 東近江市 | 124 | | 124 | 64 | | 64 | 60 | | 60 |
| 愛荘町 | 47 | | 47 | | | | 47 | | 47 |
| 多賀町 | 25 | | 25 | 25 | | 25 | | | |
| 米原市 | 204 | | 204 | 204 | | 204 | | | |
| 長浜市 | 233 | | 233 | 155 | | 155 | 78 | | 78 |
| 高島市 | 124 | | 124 | 50 | | 50 | 73 | | 73 |
| 滋賀県計 ³⁾ | (1,615) | (48) | (1,615) | (740) | (48) | (740) | (875) | | (875) |
| | 1,691 | 48 | 1,643 | 771 | 48 | 723 | 921 | | 921 |



注1) 法指定地域とは、「特定農山村法」「山村振興法」等に指定された地域

注2) 特認地域とは、県知事が指定する自然的・経済的・社会的条件が不利な地域

注3) 滋賀県計の上段の () は平成27年度の数值。以下、同様。

4. 交付金額・使途状況

- 交付金額は258,689千円と、協定数・協定面積の増加により前年度に比べ7,248千円の増額となった。
- 交付金額のうち、62%が共同取組活動に、38%が個人配分に充てられた。前年度と比較し、若干、個人配分の比率が高まった。

交付状況・使途状況

| 市町名 | 交付額（千円） | 割合（％） | | | |
|------|-----------|-----------|----------|-------|-------|
| | | 共同活動 | 個人配分 | 共同 | 個人 |
| 大津市 | 91,877 | 49,630 | 42,247 | 54% | 46% |
| 栗東市 | 8,365 | 1,449 | 6,917 | 17% | 83% |
| 甲賀市 | 50,458 | 31,682 | 18,777 | 63% | 37% |
| 湖南市 | 1,366 | - | 1,366 | - | 100% |
| 東近江市 | 25,775 | 21,591 | 4,183 | 84% | 16% |
| 愛荘町 | 3,359 | 3,359 | - | 100% | - |
| 多賀町 | 1,805 | 992 | 813 | 55% | 45% |
| 米原市 | 30,896 | 17,828 | 13,068 | 58% | 42% |
| 長浜市 | 27,264 | 22,448 | 4,815 | 82% | 18% |
| 高島市 | 17,524 | 11,827 | 5,698 | 67% | 33% |
| 滋賀県計 | (251,441) | (164,018) | (87,423) | (65%) | (35%) |
| | 258,689 | 160,806 | 97,884 | 62% | 38% |

【参考】

交付金の概ね1/2以上を個人配分に充てることを原則としているが、交付金の配分、使途は集落の裁量に委ねられている（協定参加者の話し合いにより決めることができる）。

5. 共同取組活動費の使途内訳

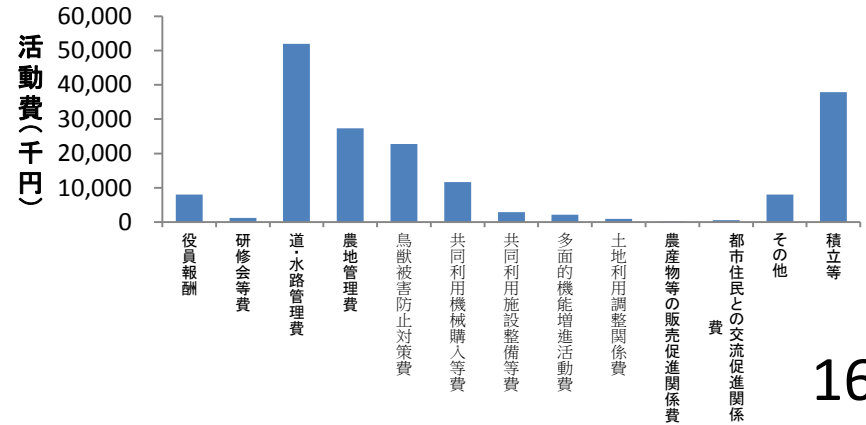
共同取組活動費の使途内訳(滋賀県計)

(単位:千円)

| 市町名 | 共同取組活動費 | 使途内訳 | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------|------------|------------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|--------------|---------------|------------|--------------|
| | | 役員報酬 | 研修会等費 | 道・水路管理費 | 農地管理費 | 鳥獣被害防止対策費 | 共同利用機械購入等費 | 共同利用施設整備等費 | 多面的機能増進活動費 | 土地利用調整関係費 | 農産物等の販売促進関係費 | 都市住民との交流促進関係費 | その他 | 積立等 |
| 大津市 | 55,594 | 2,795 | 592 | 20,153 | 7,857 | 8,600 | 4,367 | 590 | 1,813 | - | 80 | 248 | 2,621 | 5,878 |
| 栗東市 | 1,449 | 230 | 58 | 350 | - | - | - | - | - | - | 100 | - | - | 710 |
| 甲賀市 | 37,287 | 1,220 | 595 | 14,658 | 9,338 | 896 | 200 | - | 160 | 900 | - | - | 3,713 | 5,606 |
| 東近江市 | 21,591 | 683 | - | 8,543 | 4,321 | 1,829 | - | 512 | - | - | - | - | 1,000 | 4,703 |
| 愛荘町 | 4,252 | - | - | - | - | 2,465 | - | - | - | - | - | - | - | 1,787 |
| 多賀町 | 992 | 260 | - | 50 | - | 412 | - | - | - | - | - | - | 150 | 120 |
| 米原市 | 17,828 | 1,330 | - | 3,777 | 1,447 | 1,972 | 2,100 | 800 | - | 50 | - | 100 | 161 | 6,091 |
| 長浜市 | 22,448 | 975 | - | 2,882 | 1,471 | 5,095 | 3,607 | - | 235 | - | 31 | - | 286 | 7,866 |
| 高島市 | 14,331 | 547 | 35 | 1,531 | 2,897 | 1,477 | 1,400 | 1,000 | - | - | - | 237 | 121 | 5,087 |
| 滋賀県計 | (166,106) | (7,944) | (1,562) | (45,205) | (22,244) | (17,322) | (11,091) | (3,007) | (2,051) | (950) | (226) | (617) | (7,543) | (46,344) |
| | 175,774 | 8,040 | 1,281 | 51,945 | 27,332 | 22,746 | 11,674 | 2,901 | 2,208 | 950 | 211 | 585 | 8,052 | 37,848 |
| (共同活動費に占める割合) | | (5%) 5% | (1%) 1% | (27%) 30% | (13%) 16% | (10%) 13% | (7%) 7% | (2%) 2% | (1%) 1% | (1%) 1% | (0%) 0% | (0%) 0% | (5%) 5% | (28%) 22% |

注) 共同活動費の合計額は前年度からの積立等を含む

- 共同活動費の使途では、道・水路管理費、積立等が多く、全体の1/2を占める。
- 積立等の内訳では、「機械」「道・水路、農地整備」で77%を占める。
- 交付金のすべてを共同活動に充てたのは40協定(H27は55)と、個人配分を行った集落が増えた。



6. 体制整備に向けた取り組み状況

- 集落協定147のうち、121協定(82%)が体制整備のための前向きな活動に取り組み、そのうち119協定がC要件の取組でした。

| 市町名 | 集落協定数 | うち、通常単価(10割)取組協定数 | | | |
|------|--------------|-------------------|-----|----------|--------------|
| | | A要件 | B要件 | C要件 | |
| 大津市 | 24 | 18 | - | 1 | 17 |
| 栗東市 | 6 | 6 | - | 1 | 5 |
| 甲賀市 | 53 | 48 | - | - | 48 |
| 東近江市 | 12 | 11 | - | - | 11 |
| 愛荘町 | 3 | - | - | - | - |
| 多賀町 | 3 | 2 | - | - | 2 |
| 米原市 | 13 | 12 | - | - | 12 |
| 長浜市 | 23 | 22 | - | - | 22 |
| 高島市 | 10 | 2 | - | - | 2 |
| 滋賀県計 | (141) 147 | (116) 121 | - | (2) 2 | (114) 119 |

- ◆A要件(農業生産性の向上):
機械・農作業の共同化、担い手への農地集積等
- ◆B要件(女性若者等の参画を得た取組):
新規就農者の確保や農産物等の加工販売等
- ◆C要件(集団的かつ持続可能な体制整備):
協定参加者が活動等に継続が困難となった場合に備え、農地を引受けて管理する者を協定で定める

※体制整備のための前向きな活動は上記3要件から1つを選択

注) 個別協定2(湖南市1、高島市1)は含めず。

7. 個別協定の取り組み状況

- ・ 個別協定での取り組みは2協定でした。

| 協定締結者 | 農業生産法人 | 認定農業者 |
|------------|--|---|
| 交付単価 | 通常（10割） | 基礎（8割） |
| 協定締結面積（ha） | 6.5 | 8.4 |
| うち、利用権設定等 | 6.5 | 8.1 |
| うち、自作地面積 | - | 0.3 |
| 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産活動を5年間以上継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産活動を5年間以上継続 ・ 耕作放棄の防止活動（賃借権設定・農作業の委託、農地の法面管理、柵、ネット等の設置） ・ 水路、農道等の管理 ・ 周辺林地の下草刈り |

注）個別協定の場合、協定農用地に自作地を含めると、農業生産活動を5年以上継続する以外に、多面的な機能を発揮させる取組等が必要となる。

「個別協定」とは、認定農業者等が、農用地の所有者との間において、利用権の設定や作業の受委託を締結したうえで、「対象となる農用地」、「設定権利等の種類」、「設定権利者・委託者名」、「設定権利等の契約年月日と契約期間」、「交付金の使用方法」、「加算措置適用のために取り組むべき事項」を規定し、「集落協定」と同様に、市町長の認定を受けたものをいう。

8. 加算措置の取り組み状況

- 県内における加算措置の取り組みは、超急傾斜農地保全管理加算のみであり、平成28年度は、9協定、463,608㎡で取り組み、2,782千円の加算を受けられた。
- 前年度より、協定数で1、面積で23,647㎡増加した。

| 加算措置の内容 | 協定数 | 面積 (㎡) | 加算金額 (円) | 該当市町名 |
|-------------------------------|-----|-----------|-------------|----------------------------|
| 集落連携・機能維持加算 | - | - | - | |
| 集落協定の広域化支援 ¹⁾ | - | - | - | |
| 小規模・高齢化集落支援 ²⁾ | - | - | - | |
| 超急傾斜農地保全管理支援 ^{3) 4)} | (8) | (439,961) | (2,639,766) | (大津市2、栗東市1、甲賀市1、米原市3、高島市1) |
| | 9 | 463,608 | 2,781,648 | 大津市3、栗東市1、甲賀市1、米原市3、高島市1 |

注1) 集落協定の広域化加算：複数集落(2集落以上)が連携して広域の協定を締結し、新たな人材を確保して、農業生産活動等を維持するための体制づくりを行う場合、協定農用地全体に加算(3,000円/10a)

注2) 小規模・高齢化集落支援：取り組み集落が、小規模・高齢化集落の農用地を取り込んで農業生産活動を行う場合、新たに取り込んだ農用地面積に加算(田：4,500円/10a、畑：1,800円/10a)

注3) 超急傾斜農地保全管理支援：超急傾斜地(田：1/10以上、畑：20°以上)の農用地の保全や有効活用に取り組む場合、該当の農用地面積に加算(6,000円/10a)

注4) 上段の()は、平成27年度の数値。

9. 集落戦略の作成状況について

- 集落協定147のうち、集落戦略を作成したのは、10協定でした。
- いずれも、協定面積15ha以上を有する協定で集落戦略が作成され、うち1協定では、協定面積が増加した。

(平成29年3月末時点)

| 市町 | 集落協定数 | | 集落戦略作成 済協定数 |
|------|-------|--------------|----------------|
| | | うち、15ha以上の協定 | |
| 大津市 | 24 | 11 | 3 |
| 栗東市 | 6 | 0 | 0 |
| 甲賀市 | 53 | 6 | 0 |
| 東近江市 | 12 | 2 | 0 |
| 愛荘町 | 3 | 2 | 0 |
| 多賀町 | 3 | 0 | 0 |
| 米原市 | 13 | 7 | 6 |
| 長浜市 | 23 | 3 | 1 |
| 高島市 | 10 | 3 | 0 |
| 計 | 147 | 34 | 10 |

注) 個別協定含めず

※集落戦略の作成に向けた研修会等の実績

- ・平成28年7月 大津市、高島市
- ・平成29年3月 組織の広域化に向けた研修会
- ・随時 市町担当者による各集落への推進、指導

10. 抽出検査について

- 中山間地域等直接支払交付金実施要領の運用第11の4に基づき、対象協定の中から抽出し、7市町33協定の検査を実施しました。
- 主な問題点と指導内容は以下のとおり。

抽出検査における主な問題点と指導内容

| 項目 | 問題点 | 指導内容 |
|--------------|------------------------|--|
| 交付金の会計管理について | 活動日誌等の整理が不十分である | 活動日誌の再整理もしくは総会資料を添付する等し、第三者にもわかりやすい内容とすること |
| | 共同活動にかかる日当単価が2種類存在する | 作業の難易度により単価を変えている等、説明できるよう内容を整理すること |
| | 物品購入時に、ポイントカードが利用されている | ポイントカードは使用しないよう、注意すること |

表 平成28年度抽出検査数

| 市町名 | 検査協定数 |
|------|-------|
| 大津市 | 5 |
| 甲賀市 | 12 |
| 東近江市 | 3 |
| 愛荘町 | 2 |
| 米原市 | 3 |
| 長浜市 | 5 |
| 高島市 | 3 |
| 7市町 | 33協定 |

11. 中山間地域等直接支払制度の効果と課題

効果

- 協定数、協定面積が増加した。
- 耕作放棄地の発生防止活動等を通じて、農地が適切に維持保全された。

問題点・課題

- 制度の運用改善(集落戦略を作成による遡及返還規程の緩和)のより一層の活用
 - 交付金の遡及返還規定(耕作できなかった場合、協定農用地すべての交付金を協定締結年度に遡って返還)が厳しく、他の者へ迷惑がかかるとの理由から、協定を抜ける耕作者あり
- 協定参加者(役員含む)の高齢化、事務作業の負担軽減

12. 今後の対応方針(案)

- 中山間地域における農用地の維持には、中山間地域等直接支払制度が有効であるため、取組面積の拡大に向けた推進を行う(滋賀県農業・水産業基本計画 H32 1,895ha)。
- 本制度の取り組みに際し、耕作できなかった場合の「交付金の遡及返還」に対する不安が大きいことから、国の運用改善(広域協定(15ha以上等)が平成29年度末までに集落戦略を作成した場合、交付金の遡及返還規程を緩和)を活用できるよう誘導する。
- なお、継続地区に対しては、
 - ①協定農用地が15ha以上の協定では、平成30年3月末までに集落戦略が作成されるよう、
 - ②15ha未満の協定では、集落の話し合いにより協定統合の意向を確認した上で、協定統合により15ha以上を確保し(平成29年6月末まで)、その後、集落戦略が作成されるよう、誘導する(平成30年3月末まで)。
- 併せて、本年度に中間年評価を実施するため、制度の効果と課題を明確化する。また、市町に対する支援内容を自己評価し、本制度の取り組み強化につなげ、面積拡大に向けた推進を行う。